

めざす学校像・子ども像・教員像		課 題	今後の改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学び合い、育ち合う場としての学校 ○ 学校は楽しい、明日も学校へ行きたいと言える児童 ○ 子どもの心に寄り添い、学び続ける教師 		基礎学力の定着と基本的学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心に授業の工夫改善に取り組み、どの教科にも通用する指導方法・指導技術の向上を図る。 ・家庭学習の定着を図るために、手引きを家庭に配布したり、学び方指導を行ったりして家庭と連携して取り組む。
		自尊感情を高め、心身共に健康な児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・QUアンケート等で実態を把握し、日常の学習や特別活動等の活動を通して自信を持たせる。 ・他者理解を図る学習やよさ見つけの活動を行い、自他を大切に育てる。
		基本的な生活習慣を身につけた児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や清掃指導に力を入れ、明るい環境作りに努める。 ・不登校傾向にある児童に対し、児童支援加配やスクールカウンセラーを中心に家庭や専門機関との連携を十分に行う。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
自ら進んで学習に取り組む基本的な学習習慣の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> テーマ研究による「わかる授業」の工夫をすることで、福岡市学習定着度調査で、算数科において全国平均に3ポイント近づける。 習熟度別や小集団による学習を各学年学期に1単元以上行い、自己評価において「学習がわかる」児童60%を目指す。 ・家庭学習の状況調査を行い、自ら机に向かい自主学習に取り組んでいると自己評価する児童が70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市学習定着度調査で算数科において、3年生は、-6.6ポイント、4年生は-4.8ポイントといずれも全国平均よりは低いが、全国平均正答率に3ポイント以上近づいている。また、学期末の算数まとめのテストにおいて、平均80点以上の児童が70.4%で前年度より、4.9%上がっている。 ・学期末にとったアンケートで「学習がわかる」と答えた児童が、目標の60%を超え、82%であった。 ・家庭学習強調週間のときの調査で自主学習に進んで取り組んでいる児童は、81%であった。 	
自尊感情の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・QUアンケートを2年生以上で実施し、その結果を基に研修をすることで学級満足度群の児童50%以上を目指す。 ・児童会でのよさ見つけの取組で全校60000フワリー(見つけたよさの数)を目指す。 ・ケース会議等による児童理解の共有化を図ったり、支援のあり方について研修を深めたりして特別支援教育を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期にとったQUアンケートでは、学級満足群50%以上の学級が29.4%しかなかったが、夏期の研修後、2学期にとったアンケートでは、平均52%に上がった。 ・児童会で60000フワリーを目指して取り組んだ。現在のところ、昨年度の40000フワリーを超え、50000フワリー以上である。 ・特別支援コーディネーターや児童支援加配が中心となって、学校のみならず、保護者や地域の方々、関係諸機関と連携しながら、学期に1回以上ケース会議を開くことができ、児童理解の共有化が図られた。 	
不登校生徒の減少と規範意識の向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶名人」などの肯定的評価を通して、進んで挨拶をする児童、もくもく掃除を行う児童の自己評価を共に80%以上を目指す。 ・家庭と連絡を密に取り、30日以上長期欠席者21人から5人減を目指す。 ・学級や全校においてレクレーションやなわとび集会など一緒に活動し、信頼関係を築く人間的ふれあいの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の月目標に挨拶や掃除を入れて全校で取り組んだ。その結果、2月現在「挨拶名人」や「フワリー賞」などの肯定的評価で賞を渡した人数は、延べ122人である。また、児童の自己評価によると、「できた」と答えた児童の割合が挨拶は80%、もくもく掃除は93%と高く、目標は達成できた。 ・担任だけではなく、児童支援加配やSSW,SCなども連携して、家庭と連絡を密に取ることで、2月末現在30日以上欠席者は、14人と7人減っている。よって目標は達成できた。 ・全校で取り組む集会の他に各学級でレクレーションを取り入れていた。「信頼関係を築く人間的なふれあいの充実を図ったか」という学期末にとった教師アンケートで83%以上が肯定的評価をしている。 	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> ○学校の取組がよく分かった。子どもたちに力と愛情をしっかりとかけているところが、とてもありがたく、感謝している。 ○授業環境が良好である。子どもたちが先生に注目している学習態度に感心した。 ○不登校傾向にある子どもたちへの対応もとても丁寧なされているのを目の当たりにしてありがたいと思う。遅刻気味の子どもたちが間に合わせようと急いで登校するように、規律を意識させていく必要がある。地域でも気を付けて見守りたい。 ○若い教員が増え、研修をされていること、とても努力されていることがわかった。 ○挨拶は、よくすることができているが、声小さいことや自分から進んでするというところは、まだ課題がある。今後も学校だけでなく、地域でも取り組んでいく。 ○育成会の活動や地域行事など地域では、自分から活動に入り自分の力を発揮できる自主性がみられるようになった。 			